

令和七年度 静岡県立清水西高等学校 卒業式式辞

式 辞

寒さの中にも日ごとに暖かさが増し、春の息吹が感じられる頃になりました。

本日、PTA会長 山下由美 様、後援会会長 望月琢夫（たかお）様をはじめ多数の御来賓の皆さまの御臨席を賜り、静岡県立清水西高等学校 令和七年度卒業証書授与式を挙げていきますことを、心から感謝申し上げます。

これまでお子様の成長を見守り、励まし、支えてこられた保護者の皆様の感慨も一人（ひとしお）のことと拝察いたします。改めてお祝い申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました144名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

4月から就職して社会人となる人、大学・短大・専門学校に進学する人と様々ですが、自分で選んだ新たな道を歩み出すことになります。

本日の卒業式は、みなさんにとって、長い人生の中で、一つの大きな節目の日となります。この三年間は、みなさんの記憶にどんな思い出として刻まれていますか。

入学した2023年は、新型コロナウイルスが感染症法の分類で、2類から5類に移行しました。マスクの着用が個人の判断に委（ゆだ）ねられ、学校生活や行事などに制限がない、日常生活に活気が戻った年となりました。

ChatGTPなどの生成AIが急速に普及し、社会や学びのあり方に新たな問いが投げかけられた年。また、wBC（ワールドベースボールクラシック）での侍ジャパンの優勝が、日本中に感動と勇気を与えた年でもあります。

2年生となった2024年では、元日に起きた能登半島地震。『まさか』の出来事に、改めて『あたりまえにある日常の尊さ』、『命の尊さ』を痛感するとともに、困難な状況の中でこそ、助け合うこと、防災の重要性を、改めて考えさせられました。

この年、国内では新紙幣が発行されるなど、経済の節目の年ともなりました。

世界では、パリ・オリンピック・パラリンピック大会が開催されました。街中を競技場として開放し、歴史的建造物で競技を実施するなど、斬新でインクルーシブな、とても身近な大会となりました。アスリートが限界に挑む姿に、多くの人が胸を熱くしました。一方で、各地で続く紛争など、平和への願いが、より一層強まった年でもありました。

そして、3年生となった今年、2025年は、世界と日本にとって大きな転換期を迎えました。国内では、昨年4月から10月にかけて開催された大阪・関西万博。

『いのち輝く未来社会のデザイン』を掲げたあの祭典は、皆さんの世代が担うべき未来の可能性を私たちに示してくれました。

また、政治の世界では、憲政史上初めてとなる女性の総理大臣（高市早苗氏）が誕生しました。日本という国で、当たり前だと思われていた壁が取り払われ、歴史に新たな1ページが刻まれたのです。

海の向こうアメリカでは、第2次トランプ政権が始動し、関税引き上げや移民対策など、自国第一主義の政策で世界経済や国際秩序が激しく揺れ動いた、そんな1年でもありました。

清水西高校は、今年で創立115年を迎える清水地区で最も古い歴史を誇る学校です。明治時代に巴実科高等女学校として産声を上げ、地域の女子教育を支えてきました。平成17年度からは男女共学となり、時代に合わせて姿を変えながら、常に地域の未来を築く人材を育成してきました。校訓「清く けだかく 美しく」のもと、文武両道をめざす良き校風は、多くの先輩方の弛まぬ努力によって築き上げられたものです。それぞれの時代、社会的な背景の中を過ごした卒業生の数は2万5千人を超え、地元清水区はもとより、県内外、また、海外でも、産業、教育、芸術、スポーツなど、あらゆる分野で活躍しています。

ここにいるみなさんも、今日を境に、伝統ある清水西高校の同窓生となりました。

卒業生のみなさん、みなさんは、西高でどのような高校生活を送りましたか。

人生は一度きり。 その主人公は、他の誰でもなく、あなた自身です。

自分の人生の物語を、自分の足で歩いてきた実感はありますか。

生まれ育った環境は違っても、西高で過ごした三年間は、誰にとっても平等だったはずです。大事なことは、その時間をどのように過ごしたか。どう過ごせたかだと思います。

部活動や検定やコンクールなどで得た成果は、その後の自分を支える自信になります。目標まで到達できなかった悔しさは、自分を奮い立たせる原動力になります。三年間“これだ”と言えるものが見つからない場合もあったかもしれません。

でも、それはそれでいいのです。“自分探し”の途中で苦しい時間を過ごした人は、き

っと、同じような境遇にある人の気持ちを理解でき、決して無駄になることはありません。良い状況にあった人は、もし、この先努力を怠れば、今ある状況を維持することも、向上することもありません。報われない状況にあったという人は、この先の人生で、自分が納得できるまで努力をして打開しなければ、事態を好転させることはないので。

今や世界は、地球規模の気象問題、紛争、深刻な食糧不足など、未来が予測しにくいVUCA社会に突入しています。地球は今、大きな痛みの中にあるのかもしれませんが。しかし、時代を動かすのは、いつの世も若者の情熱です。この混沌とした世界に、新しい光をもたらす存在であってほしい。西高での三年間で培った様々な力（生きる力）で、困難を乗り越えて行ってほしい、そう願っています。

みなさんが、これから歩む人生を豊かなものとしていけるよう、私から三つのメッセージを贈り、餞（はなむけ）の言葉とします。

一つめは、『進化を止(や)めない。』

これまでの学びの多くは、教科書を開き、先生から教わることで知識を蓄えてきました。しかし、これから先は「正解のない問い」が無限に広がっています。

『学び』は、誰かから与えられるものではありません。

「地域や社会には今、どんな課題があるのか」「自分ならどう向き合うのか」

教科書の外側に目を向け、自らの足で歩き、自分の頭で考え抜いて、自分なりの答えを導き出してください。

そうした泥臭い努力の積み重ねこそが、自分を「進化」させる唯一の道です。

答えがすぐに見つからなくても構いません。大切なのは、問い続けることをやめない姿勢です。この先も、自ら課題を見つけ、挑み続ける努力を怠らないでください。

『進化を止(や)めない』人となって行ってください。

二つめは、『自分はこう思う』『相手はそう思う』の違いを大切にせよ。

多様性が尊重される時代です。自分と他人は違ってあたりまえ。

むしろ、違うからこそ良いのです。高校生活の中で、部活動や学校行事、日々の授業を通じて、多様な価値観を持った仲間たちと本音で語り合った経験は、貴重な財産となったはずです。意見が対立することや、考え方の違いに直面することもあったこ

とでしょう。しかし、「本気」が伝われば、必ず分かり合え、お互いに成長できたはず
です。卒業してからも、こうした経験を忘れないでください。自分の意見や思いをし
っかりと語ることは大切です。しかし、それと同じくらい、相手の思いや考えを尊重
し、大切に考える姿勢を持ち続けてください。社会に出ると、みなさんの想像以上に
多様なバックグラウンドや価値観を持つ人たちと協働する機会が増えます。

その時に、この「違いを大切にする」姿勢が、円滑な人間関係を築き、誰にとつて
も、豊かな未来を創造していってください。自分とは異なる意見や考え方に会った
時、それを「間違い」ではなく「違い」として受け止め、相手の立場に立って考える
想像力を持ってください。

三つめは、人間性を磨き、心豊かな人となれ。

技術がどれほど進歩し、社会の仕組みが移り変わろうとも、決して変わることはない
大切なものがあります。それは、人としての「温かさ」や「思いやり」です。

これこそが、人と人をつなぎ、未来を切り拓く最も尊い力になると私は信じていま
す。本校の校訓「清く けだかく 美しく」。この言葉は、皆さんが在学中に目指す
べき姿であったと同時に、卒業してからも、生涯を通じて持ち続けてほしいと願う明
確な指針。いうなれば、私たち教職員一同が合言葉にしている、『同じ星を見て歩こ
う！』です。かくありたい、そう願ひ、求め続ける西高に関わるすべての人のプライ
ドです。これから皆さんが踏み出す社会は、決して平坦な道ばかりではありません。

迷い、立ち止まることもあるでしょう。そんな時こそ、この清水西高校で過ごした三
年間の思い出してください。

自分以外の誰かの役に立ちたいと願ひ、相手の喜ぶ顔を思い浮かべて行動する。

どんな時にも、心を豊かに保ち、周囲に温かな光を灯せる人であってください。

皆さんが持つ「思いやりの心」は、必ず誰かの支えとなり、巡り巡って皆さん自身の
人生をより豊かなものにしてくれるはずで。

結びに、卒業生の皆さん一人一人が、自分で選んだそれぞれの世界で、『唯一無二』の
掛け替えのない人材に成長を遂げ、自分らしく、そして、力強く御活躍されることを
心からお祈りし、式辞といたします。

令和八年三月二日

静岡県立清水西高等学校 校長 山野 良成